

令和2年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育振興会
	代表者	理事長 花 山 俊 春
	所在地	むつ市大畑町観音堂25-1
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関すること。 2、施設の利用料金の徴収に関すること。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7、施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8、施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額①	上半期実績額②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	92,690	42,651	▲50,039
うち利用料金額	8,302	457	▲7,845
うち指定管理料	84,388	42,194	▲42,194
支出合計(B)	92,690	34,383	▲58,307
うち人件費	57,208	26,538	▲30,670
収支差 (A-B)	0	8,268	8,268
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>9月までの利用料合計は、前年実績4,779千円であったが当期は4,322千円少ない457千円であった。年度初めからの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、施設の閉鎖や利用団体のキャンセル及び利用内容の変更が相次いだことが利用人数及び宿泊利用の減少に繋がった。</p> <p>今後は、当振興会で策定した「新型コロナウイルス感染対応マニュアル」に基づき、利用者の安全を確保するとともに、サービスの向上にも努め利用者増加を図っていきたい。</p> <p>支出</p> <p>支出の執行額は、昨年度より7,580千円少ない34,383千円となった。設備の経年劣化に伴う修繕費が増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用者的大幅な減少に伴い支出も減額となった。</p>		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
	宿 泊	1,700	23	▲1,677
	食 事	14,000	861	▲13,139
	貸 館	180	12	▲168
	リネン	2,500	51	▲2,449
	教 材	2,600	462	▲2,138

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有・無)
 主催事業及び各団体の受入事業ごとに利用者アンケートを実施している。
 今年度は、従来の利用者満足度に加え、新型コロナウイルス感染症対策に関わる満足度や要望を把握するための項目を新設して実施した。感染症対策についても、十分に満足できるとの回答を得ている。

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
オートキャンプ	※中止		
伝統体験「そば打ち～春～」	※中止		
家族でBBQ	※中止		
家族でデイキャンプ	34	18	18
食のイベント「ハロウィン」			
伝統体験「そば打ち～秋～」			
伝統体験「としな作り」			
伝統体験「べこもち作り」			

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A(優良)：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があげることが見込まれる。

B(適正)：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C(要改善)：指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B

③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

<p>令和2年度は、むつ市下北自然の家指定管理3期目の初年度を迎えた。</p> <p>年度初めから、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設の閉鎖や利用団体のキャンセル及び利用内容の変更等が相次いだ影響で利用再開がずれ込み、ほとんどの受入事業は9月からとなった。再開後は、これまでの経験を活かして自然体験活動の充実を図り、多くの利用者に自然と触れ合う体験活動を提供し、誠意ある対応に努めている。癒しと潤いのある社会教育施設として幼児から高齢者に至るすべての市民のニーズに応えることを目標に掲げて事業運営に取り組んだ。</p> <p>利用再開後は、段階的に事業を実施し、新型コロナウイルス感染対策マニュアルに基づき施設利用の充実を図った。</p> <p>上半期の利用状況は、利用団体数87団体（R1は277団体）、利用人数1,210人（R1は4,189人）、利用総延べ人数1,264人（R1は6,346人）となり、前年同時期と比較し、利用者数2,979人減、利用延べ人数は5,082人減少した。特に新型コロナウイルスの影響で、キャンセルや日程変更が生じたことで4月から8月の各種事業及び出前講座等が実施できなかったことが実績の大幅な減少に繋がった。</p> <p>評価項目「(4)②設備、備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか」をA評価とした理由は、臨時休館中に職員が自ら黒森山山頂の展望台やちぢり浜展望台のリニューアルや、大規模な野外食卓の整備、足洗い場の新設等の作業を積極的に実施し、利用者満足度向上の取組みを図ったためである。</p> <p>併せて、施設内の屋根のペンキ塗りを実施し、より良い景観作りを心がけるように努めてきた。その結果、利用再開後には「自然の家が新しく生まれ変わったように感じる。」等、多くの方から好評を得た。</p> <p>さらに、今年度は9月以降に繁忙期を迎え、実施できるプログラムも限られるため、利用者の立場に立ってさらにプログラムを工夫していくことで利用者満足度の向上に努めていきたい。また、常に安心・安全を最優先に心がけ、事前に各コース点検、施設・設備の確認、施設の営繕等の取組みを継続していく。</p> <p>職員研修では、食事提供時の異物混入やアレルギー対応、防災実習、感染症防止対策等各種マニュアルを繰り返し確認し合うとともに、労働災害等の安全面にも繋がる講習会をすることで、職員の技術や専門性の習熟に努めている。</p>

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

施設職員によるペンキ塗装等は、施設の機能維持や長寿命化に寄与するもので、利用者の満足度向上にもつながった。このことから、評価項目「(4) ②設備・備品の維持管理 及び修繕が適切に行われたか。」に関する市の評価をAとした。それ以外の個別評価については、いずれも適正に行われていた。